

平成 13 年度事業報告

社団法人瀬戸内海環境保全協会

I 一般事項

1. 会議等の開催

(1) 総会

①平成 13 年度通常総会（平成 13 年 5 月 25 日 国際健康開発センター）

- ・平成 12 年度事業報告及び収支決算
- ・平成 13 年度事業計画及び収支予算
- ・国に対する要望
- ・役員の変更

②平成 13 年度臨時総会（平成 13 年 10 月 22 日 兵庫県水産会館）

- ・役員の新選

(2) 理事会

①第 66 回理事会（平成 13 年 5 月 16 日 ひょうご女性交流館）

- ・専門委員の委嘱
- ・通常総会付議事項

②第 67 回理事会（平成 13 年 9 月 27 日 兵庫県水産会館）

- ・役員の新選
- ・専門委員の委嘱

③第 68 回理事会（平成 13 年 10 月 22 日 兵庫県水産会館）

- ・会長・副会長の互選

④第 69 回理事会（平成 14 年 3 月 20 日 国際健康開発センター）

- ・職員給与規則等の一部改正
- ・平成 13 年度収支予算の補正
- ・平成 13 年度事業実施状況
- ・平成 14 年度事業計画案及び収支予算案

(3) 専門委員会等

①企画委員会

ア 第 64 回企画委員会（平成 13 年 6 月 4 日 国際健康開発センター）

- ・平成 13 年度事業計画の進め方について

イ 第 65 回企画委員会（平成 13 年 11 月 13 日 国際健康開発センター）

- ・設立 25 周年特別企画事業の検討について
- ・平成 13 年度事業実施状況について

ウ 第 66 回企画委員会（平成 14 年 3 月 5 日 国際健康開発センター）

- ・平成 13 年度事業実施状況について

- ・平成 14 年度事業計画（案）について
- ②調査委員会（平成 14 年 2 月 8 日 広島サンプラザ）
 - ・平成 13 年度瀬戸内海環境情報基本調査経過説明
 - ・平成 14 年度瀬戸内海環境情報基本調査計画（案）について
- ③編集委員会
 - ア 第 1 回編集委員会（平成 13 年 7 月 9 日 国際健康開発センター）
 - ・協会総合誌「瀬戸内海」第 26 号及び第 27 号の編集について
 - イ 第 2 回編集委員会（平成 14 年 1 月 15 日 国際健康開発センター）
 - ・協会総合誌「瀬戸内海」第 28 号及び第 29 号の編集について
- ④賛助会員事業部会
 - 第 1 回賛助会員事業部会（平成 13 年 7 月 24 日 国際健康開発センター）
 - ・平成 13 年度事業計画の検討
- (4) 参事・事務局長並びに担当課長会議（平成 14 年 3 月 26 日 国際健康開発センター）
 - ・平成 13 年度事業実施状況について
 - ・平成 14 年度事業計画（案）について

2. 専門委員の委嘱等

企画委員、調査委員、編集委員を委嘱した。

(1) 企画委員

北 田 博 昭	大阪府環境農林水産部環境指導室保全課長
嵐 一 夫	兵庫県県民生活部環境局水質課長
抹 香 尊 文	広島県環境生活部環境局環境調整室長
大 森 利 春	香川県生活環境部環境局次長兼環境保全課長
甲 斐 崇 明	大分県生活環境部環境管理課長
中 尾 典 隆	神戸市環境局主幹（水質保全・調整担当）
小 上 一 佳	和歌山市生活環境部環境対策室長
金 子 信 義	山口県漁業協同組合連合会専務理事
二 宮 英 二	愛媛県漁業協同組合連合会専務理事
宮 本 寿	〃

（平成 13 年 1 0 月 15 日

～)

薄 眞 砂 子	(社)大阪エイボランタリーネットワーク事務局長
岡 崎 進	〃

（平成 13 年 1 0 月 15 日

～)

平 尾 忠 紀	(財)広島県環境保健協会事務局長
木 原 敏 博	〃

常務理事(平成 13 年 1 0

月 15 日～)

(2) 調査委員

吉 田 誠 宏	大阪府公害監視センター所長
---------	---------------

川 村 隆 兵庫県立公害研究所長
大 畑 雅 洋 和歌山県衛生公害研究センター所長
小 倉 肇 岡山県環境保健センター所長
高 延 堅 三 広島県保健環境センター所長
宮 村 恵 宣 山口県環境保健研究センター所長
大 西 勉 徳島県保健環境センター所長
横 井 聰 香川県環境研究センター所長
井 上 博 雄 愛媛県立衛生環境研究所長
加 藤 元 博 福岡県保健環境研究所長
野 上 文 史 大分県衛生環境研究センター所長

(3) 編集委員

藤 井 正 美 (財)三栄源食品化学研究振興財団理事
久 野 武 関西学院大学総合政策学部教授
嵐 一 夫 兵庫県県民生活部環境局水質課長
井 上 祐 一 関西電力株式会社環境室環境技術グループマネジャー
岩 城 英 樹 環境省環境管理局水環境部閉鎖性海域対策室室長補佐
岡 本 亮 (財)広島県環境保健協会環境科学センター環境創造部長
北 村 弘 行 元(社)瀬戸内海環境保全協会参与
谷 本 高 敏 兵庫県立公害研究所第2研究部長
丹 下 勝 義 兵庫県立水産試験場長
西 田 正 憲 奈良県立大学地域創造学部教授
春 風 敏 之 (財)兵庫県環境クリエイトセンター事務局長兼企画開発部長
松 村 真 作 岡山県水産試験場長
谷 津 龍太郎 (社)国際環境研究協会APNセンター長
山 田 勝 一 株式会社クボタ環境安全部部長
鷲 尾 圭 司 京都精華大学人文学部教授

3. 事務局職員 (14.3.31 現在)

(1) (社)瀬戸内海環境保全協会職員

常務理事 中嶋邦弘 (兵庫県からの出向)
顧 問 櫻井正昭 ((財)自然公園美化管理財団専務理事)
事務局長兼業務課長 山崎卓三 (兵庫県からの出向)
参事兼総務課長 大川秀二郎
主 任 中井純子
主 任 濱 和宏 (総合科学(株)から出向)
主 任 守安雅代

II 事業活動

1. 普及活動及び活動支援事業

(1) 平成 13 年度(第 29 回)瀬戸内海環境保全月間事業の展開 (13.6.1~6.30)

瀬戸内海関係地域住民並びに関係者に対し、広域的な瀬戸内海環境保全意識の高揚を図るため、会員並びに関係諸団体の協力を得て、広く公募した作品によりポスターを、作成し、これを掲示するとともに、パンフレットの配布などを行った。

・平成 13 年度瀬戸内海環境保全月間ポスターの一般公募最優秀作品

兵庫県和田岬小学校 1 年 永野誉玲くんの作品

(2) 平成 14 年度 (第 30 回) 瀬戸内海環境保全月間ポスターの一般公募 (13.7.19~11.30)

ポスター選定委員会の開催 (平成 14 年 3 月 12 日)

応募数 子供部門 : 177 一般部門 : 78

(3) 瀬戸内海セッションの実施

第 5 回世界閉鎖性海域環境保全会議における特別セッションとして、瀬戸内海研究会議、瀬戸内海環境保全知事・市長会議と共同で企画構成を行い、参加者等から高い評価を得た。

また、このセッションの記録を残し、今後の環境保全活動につなげるため報告書として取りまとめた。

日 時 : 平成 13 年 11 月 2 2 日

場 所 : 淡路夢舞台国際会議場

テーマ : 21 世紀の新たな瀬戸内海の環境保全・修復・創造

—瀬戸内海で何が行われ、何が行われなかったか、今後何をすべきか—

コーディネーター 櫻井正昭 社団法人瀬戸内海環境保全協会顧問

リポーター 柳 哲雄 九州大学応用力学研究所教授

パネリスト 阿部悦子 環瀬戸内海会議代表

井上正治 北九州市環境局環境保全部長

(瀬戸内海環境保全知事・市長会議代表)

岡市友利 瀬戸内海研究会議会長

尾崎正明 国土交通省近畿地方整備局建政部都市調整官

金子信義 山口県漁業協同組合連合会専務理事

薦田直紀 (財) 広島県環境保健協会地域活動支援センター長

ジェーン・ミンダ メリーランド州環境省長官

柴垣泰介 環境省水環境部閉鎖性海域対策室長

白幡洋三郎 国際日本文化研究センター教授

平山孝信 関西電力(株)環境技術グループチーフマネージャー部長

福田幸司 国土交通省近畿地方整備局港湾空港部長

参加人数 : 約 340 名

(4) 協会設立 25 周年特別企画事業の実施

設立25周年を迎えることを記念し、社会の構成員すべての参画と協働を基本に、改めて瀬戸内海の重要性を認識し、決意を新たに環境の保全と創造に取り組むため、記念講演会を開催した。

日 時：平成14年2月20日

場 所：神戸ハーバーランド・ニューオータニ

内 容：①基調講演 未知への航海～瀬戸内海への思い～ 堀江謙一（海洋冒険家）

②パネディスカッション 観光資源としての瀬戸内海

～まち並みと島なみの再評価～

コーディネーター 小森星児 神戸山手大学学長

パネリスト フンク・カロリン 広島大学総合科学部助教授

戸田常一 広島大学経済学部教授

藤目節夫 愛媛大学法文学部教授

山本賢治 神戸山手大学人文学部教授

参加人数：約200名

(5) 瀬戸内海環境保全普及活動事業（昭和51年度～）（環境省より受託）

①人材育成事業の実施

瀬戸内海環境保全指導者育成セミナー

・近畿ブロック

日 時：平成13年10月14日

場 所：兵庫県人と自然の博物館

テーマ：多様な生き物と共生する環境づくり

基調講演：姫路工業大学自然・環境科学研究所講師 一ノ瀬友博

事例紹介：丹波農村ビオトープ連絡会 事務局長 村上俊明

猪名川の景観を守る会 代表 渡辺節子

海中写真家 宮道成彦

兵庫県人と自然の博物館 主任研究員 戸田耿介

参加者数：約40名

・九州ブロック

日 時：平成13年11月8日

場 所：小倉リーセントホテル

テーマ：多様な生き物と共生する環境づくり

基調講演：香川大学農学部教授 門谷 茂

事例発表：三菱化学(株)黒崎事業所環境安全室部長 宮田秀夫

北九州ビオトープネットワーク代表者 デワーカー・バート

北九州市役所建設局水環境課係長 上田直子

参加人数：約130名

②瀬戸内海環境保全トレーニングプログラムの実施

日 時：平成13年9月3日～5日

場 所：山口県セミナーパーク

講 師：香川大学名誉教授 岡市友利
九州大学応用力学研究所教授 柳 哲雄
広島大学大学院工学研究科教授 岡田光正
奈良県立大学地域創造学部教授 西田正憲
山口大学工学部教授 浮田正夫
美祢市の森林活動家 園田秀則
環境省閉鎖性海域対策室総量規制係長 荒木智行

参加人数：25名

(6) 瀬戸内海環境保全市民講座

①堺市

日 時：平成13年11月10日

テーマ：循環型社会に向けて

地球と共生する環（わ）の国日本を目指して

講 師：大阪府立大学名誉教授 宮南 啓

参加人数：約80名

②大分市

日 時：平成13年11月27日

テーマ：循環型社会に向けて

21世紀の「環境経営」を目指して

講 師：大阪学院大学経営科学部教授 山中芳夫

参加人数：約50名

③和歌山市

日 時：平成13年11月30日

テーマ：循環型社会に向けて

21世紀の「環境経営」を目指して

講 師：大阪学院大学経営科学部教授 山中芳夫

参加人数：約80名

(7) 平成13年度瀬戸内海漁場環境保全に関する漁業団体合同研修会の開催

主催：瀬戸内海漁場環境保全対策連絡会／山口県漁業協同組合連合会／(社)瀬戸内海環境保全協会

日時：平成13年9月14日 水産大学校教授 高橋幸則

場所：山口グランドホテル

講演：演題 養殖漁場環境と疾病について

参加人数：約50名

(8) 平成13年度瀬戸内海の環境保全に関する衛生団体合同研修会の開催

主催：瀬戸内海環境保全地区組織会議／(社)北九州市衛生総連合会／(社)瀬戸内海環境保全協会

日時：平成 13 年 10 月 18 日～19 日

場所：北九州八幡ロイヤルホテル

基調講演：瀬戸内海の統括的な環境管理機構（ガバナンス）と住民の役割

独立行政法人産業技術総合研究所 研究コーディネータ 上嶋英機

事例研究：海や河川の環境保全活動に取り組んでいる活動の紹介と情報交流

参加人数：約 180 名

- (9) 瀬戸内海スナメリ発見情報プロジェクト実践事業（平成 11 年度～平成 13 年度）（環境事業団より助成）

残された瀬戸内海の自然環境の保全を図るとともに、失われた瀬戸内海の環境を取り戻すことを目的に沿岸域住民の自主的取り組みの契機となるよう、瀬戸内海の環境の指標生物として位置づけられている「スナメリ」について発見情報プロジェクトを展開した。

- ①環境学習用 CD-ROM「スナメリと私たちの瀬戸内海」の作成、配布
- ②スナメリのマスコットイラスト及び愛称の募集（14.2.1～2.28）
- ③インターネットによる発見情報の発信

- (10) 環境保全活動テキストの発行

沿岸域の環境保全活動に資するため、瀬戸内海研究会議が、環境事業団地球環境基金の助成を受けて編集・作成した環境保全活動テキスト「瀬戸内海とわたしたち—森～川～海からひと・くらし・いきものを考えよう」を協会で印刷、発行した。

- (11) 瀬戸内海環境保全パネルの貸し出し

瀬戸内海の環境保全の普及・広報活動に資するため「瀬戸内海の環境保全パネル」を会員が実施するイベント等に展示・活用する目的で貸し出しを行った。

- (12) 環境イベントへの参加

環境保全の普及・広報活動の一環として他団体が主催する環境イベントに参加し、パネル展示、資料配付などを実施した。

- ・ひょうごエコ・フェスティバル 2001 ふれあいの祭典「さわやか環境まつり」
13.10.27～28 主催：ふれあいの祭典実行委員会他 兵庫県立明石公園（明石市）

- (13) 特別講演会の開催

通常総会の開催に合わせ、特別講演会を開催した。

日時：平成 13 年 5 月 25 日

場所：六甲荘

講演：演題 よみがえれ瀬戸内海 子ども達とみつめた瀬戸内海の姿

講師 吉和村自然文化教育センター所長 竹田隆一

- (14) 賛助会員による瀬戸内海環境保全事業の展開

①平成 13 年度瀬戸内海環境保全月間行事（平成 13 年 6 月 1 日～6 月 30 日）への積極的参加

- ・ポスター一般公募への協力、参加
- ・月間ポスター等への提出による普及啓発活動の実施
- ・月間中の行事実施状況の取りまとめ

②総合誌「瀬戸内海」の配布と投稿

③平成13年度賛助会員研修会の開催

テーマ：海の有用性

日時：平成13年10月16日

場所：独立行政法人産業技術総合研究所四国センター

海水中微量金属の回収実験プラントの見学・説明

新川河口干潟見学

香川大学農学部教授 門谷 茂

参加人数：約30名

④平成14年度瀬戸内海環境保全月間ポスター一般公募実施要領の配布

(15) 各種環境保全事業への協力

大阪湾クリーン作戦への協力

2. 指導・助成

中核市、漁業団体、衛生団体が実施する各種環境保全活動事業に対しその活動費の一部を助成した。

3. 情報収集と提供

(1) 瀬戸内海研究・環境等情報ネットワーク（「せとうちネット」）の管理、運営

瀬戸内海に関する水質等環境情報や社会経済、文化・歴史等情報、各種調査研究成果等多様な情報の提供を目的として平成10年度に構築した「せとうちネット」の的確な管理・運営に努めるとともに、環境省の委託等により情報、データの追加・更新を行った。

13年度の追加項目 ・瀬戸内海広域総合水質調査結果（逐次追加）

・漁場データ（豊後水道追加）

・記者発表資料（追加）

①委員会：せとうちネット管理運営委員会（委員長／柳 哲雄九州大学応用力学研究所教授）

②開催：第1回13.8.10 第2回14.3.7

(2) 協会ホームページの更新

自然環境が美しく持続可能な瀬戸内海を目指し、ホームページを通じて当協会の紹介を行うとともに瀬戸内海の環境情報の発信を行った。

(3) 資料集「瀬戸内海の環境保全－平成13年度版－」の発行及び配布

瀬戸内海に関連する各種資料をとりまとめ、収録した資料集「瀬戸内海の環境保全－平成13年度版－」を発行配布

・瀬戸内海の概況／産業の現況／埋立ての現況／水質・底質の現況／赤潮の発生状況／油による海洋汚染の発生状況／瀬戸内海の環境保全対策 他

(4) 総合誌「瀬戸内海」の発行

瀬戸内海の自然・社会・人文科学の総合誌として「瀬戸内海」を年4回発行し、配布し

た。

- ・平成13年6月 「瀬戸内海」 26号発行
- ・平成13年9月 「瀬戸内海」 27号発行
- ・平成13年12月 「瀬戸内海」 28号発行
- ・平成14年3月 「瀬戸内海」 29号発行

(5) 「新・瀬戸内海文化シリーズ」の頒布

協会20周年記念事業の一環として発行した「新・瀬戸内海文化シリーズ1－瀬戸内海の自然と環境」(平成9年度)及び「新・瀬戸内海文化シリーズ2－瀬戸内海の文化と環境」(平成10年度)の頒布に努めた。

- ・瀬戸内海の自然と環境 監修：合田健 編著：柳 哲雄
- ・瀬戸内海の文化と環境 監修：合田健 編著：白幡 洋三郎

4. 調査研究

(1) 瀬戸内海の生物資源の持続性評価システムに関する研究(平成11年度～平成13年度)
(環境省より受託)

瀬戸内海における生物資源の保全と持続的利用を図るため、その評価指標及び特性を明らかにし、かつ、判定基準を定量化し、持続性評価体系を構築するための調査・研究を行った。

- ①検討会：瀬戸内海の生物資源の持続性評価システムに関する研究検討委員会
(委員長／松田 治広島大学教授)

- ②開 催：第1回14.1.12、第2回14.3.8

(2) 大阪湾水質改善方策策定調査(平成12年度～平成13年度)(環境省より受託)

臨海部に工業地帯が位置し背後地に人口が集積する大阪湾は、流入する汚濁負荷量の大きさに加え、外洋水との海水交換が悪い閉鎖特性により、環境基準の達成率は、大阪湾全体で70%に満たないレベルで推移している。

21世紀における大阪湾の水質改善に実効的に機能する改善方策の検討を行った。

- ①検討会：大阪湾水質改善方策策定調査検討委員会
(委員長／渡辺正孝国立環境研究所水圏環境研究領域長)

- ②開 催：第1回14.1.8、第2回14.3.22

(3) 瀬戸内海環境情報基本調査(新平成13年度～)(環境省より受託)

瀬戸内海の環境の状況を継続的に把握し、環境保全に係る諸施策の効果を検証することにより、今後の実効的な施策の検討、推進に資するため、これまで概ね10年を周期として実施してきた基本調査を、瀬戸内海沿岸地域の地方公害研究所等の協力を得て、実施した。

- ①検討会：瀬戸内海環境情報基本調査検討委員会
(委員長／塩沢孝之広島県産業科学技術研究所副所長)

- ②開 催：第1回13.7.10 第2回14.2.5

- ③調査項目：底質、底生生物等(播磨灘、別府湾、燧灘)

また、この調査の一環として、瀬戸内海沿岸に立地する主たる温排水の排出施設に係る基礎的な情報を収集・整理した。

5. 瀬戸内海研究会議に対する支援・協力

瀬戸内海研究会議の事務局を担うとともに、研究会議が行う事業の運営・推進を支援し、協力した。

(1) 瀬戸内海研究会議事務局

瀬戸内海研究会議の円滑な事務運営と会員との連絡調整等を行った。

(2) 瀬戸内海研究会議設立 10 周年記念事業の開催

瀬戸内海研究会議が「地域間の交流・連携と新しい瀬戸内海時代の創生」をテーマとして開催した記念シンポジウムに対し、支援・協力した。

(13.8.24 兵庫県農業共済会館 (神戸市))

(3) 第 5 回世界閉鎖性海域環境保全会議の「瀬戸内海セッション」の企画構成

6. 第 5 回世界閉鎖性海域環境保全会議 (エメックス 2001) への参加等

平成 13 年 11 月 18 日～22 日に神戸・淡路で開催されたエメックス 2001 に対して、環境教育フェア (国際環境教育用教材展) に出展した。

また、特別セッションの「瀬戸内海セッション」の開催にも積極的に協力した。

7. その他関連事業

(1) 国に対する要望 (13..7.19 環境庁)

会員の意見を踏まえ、次の事業及び調査研究の拡充強化並びに協会の運営への配慮について要望した。

①瀬戸内海環境保全のための普及活動事業及び参加型環境保全活動事業の推進

②瀬戸内海的环境データの収集とデータベース機能の充実

③瀬戸内海の沿岸域の環境保全・創造に関する調査

④瀬戸内海の汚濁メカニズムの解明と富栄養化防止に関する調査研究

⑤瀬戸内海 of 自然環境保全に関する調査研究

⑥瀬戸内海 of 化学物質等による環境影響に関する調査研究

⑦各種開発事業等に係る環境影響評価及び環境管理技術に関する調査研究

⑧瀬戸内海研究会議の調査・研究活動の拡充・強化

(2) 瀬戸内海環境保全知事・市長会議との連携

「瀬戸内海環境保全知事・市長会議」と連絡を密にし、事業実施にあたった。

(3) 賛助会員の加入促進

協会の目的に賛同する企業等の賛助会員加入の促進に努めた。

(平成 14 年 3 月末現在 137 社、144 口)

(4) 協会パンフレットの配布

一般の方々に対して協会の設立目的、組織、事業活動をよりわかりやすく広報することを目的に協会のパンフレットを配布した。